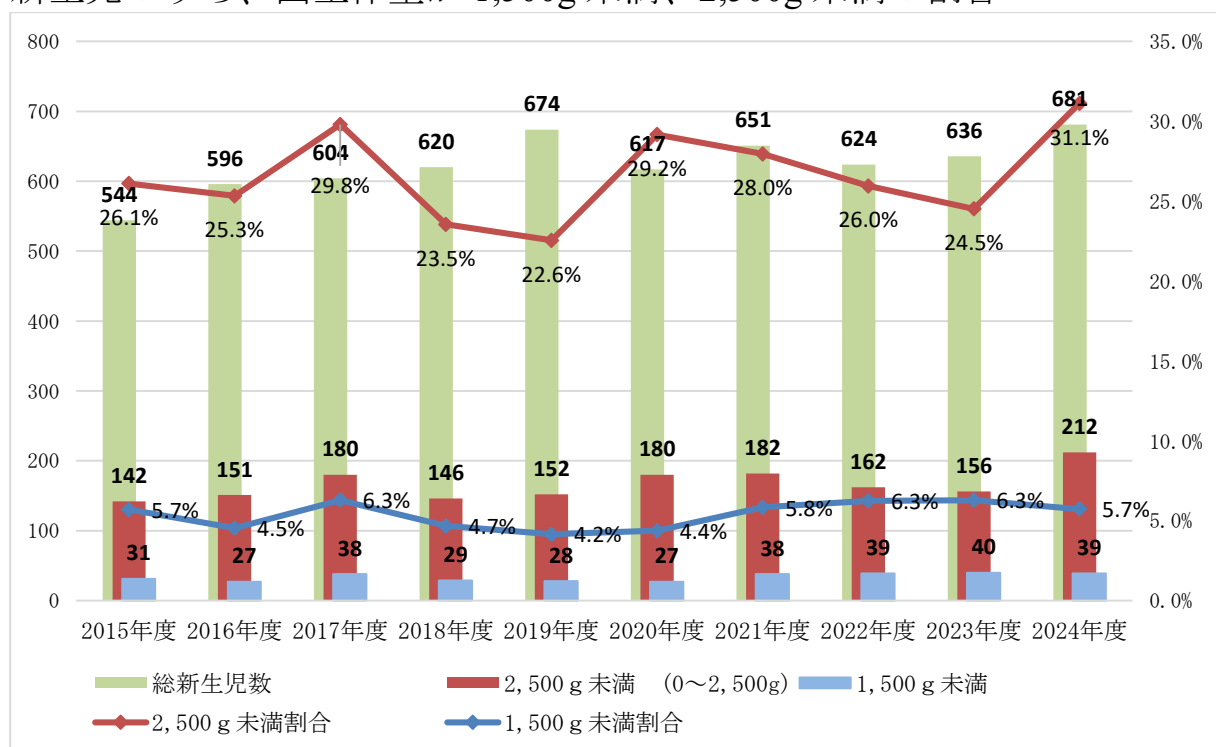


新生児のうち、出生体重が 1,500g 未満、2,500g 未満の割合



当院は、高次機能病院の総合周産期母子医療センターであり、早産や胎児発育異常症例の取扱いが多いことから、低出生体重児の出生数及び出生率は、一般の分娩取扱施設に比して高く、出生体重が 1,500g 未満、2,500g 未満の割合は、2015 年以降、前者が 4.2～6.3%、後者が 22.6～31.1%である。その間、総分娩数は若干増加をみたが、低出生体重児の出生数及び出生率ともに概ね横ばいと言える。また、2500g 未満の出生児の割合は 2020 年度の 29.2%から 2023 年度は 24.5%へ漸減していたが、2024 年度は 31.1%へ増加している。正期産で出生した新生児の出生体重 2500g 未満の割合は 30%前後であり、妊娠中からの栄養・体重管理のほか、合併症発症が関与していると推察される。

データ提供 看護部 B-3 病棟（産科）